

# オーストラリア・インカム株式ファンド(毎月分配型) 〈愛称 ピンクダイヤモンド〉

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第91期(決算日2020年3月16日)

第92期(決算日2020年4月15日)

第93期(決算日2020年5月15日)

第94期(決算日2020年6月15日)

第95期(決算日2020年7月15日)

第96期(決算日2020年8月17日)

作成対象期間(2020年2月18日～2020年8月17日)

第96期末(2020年8月17日)	
基準価額	5,006円
純資産総額	2,659百万円
第91期～第96期	
騰落率	△ 10.6%
分配金(税込み)合計	480円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「オーストラリア・インカム株式ファンド(毎月分配型)」は、2020年8月17日に第96期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、オーストラリアの株式に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

&lt;641812&gt;

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

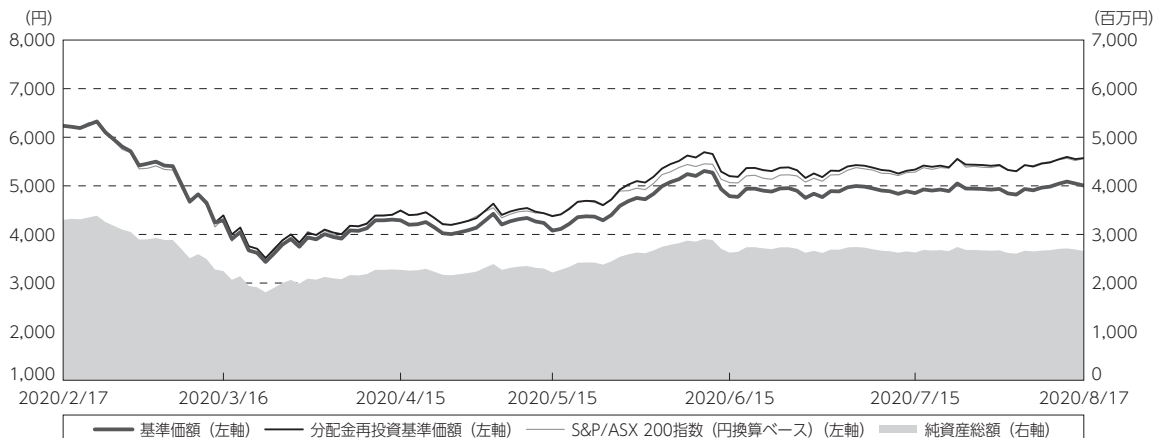
コールセンター 電話番号: 0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

### 作成期間中の基準価額等の推移

（2020年2月18日～2020年8月17日）



第91期首： 6,235円

第96期末： 5,006円（既払分配金（税込み）：480円）

騰落率：△ 10.6%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額およびS&P/ASX 200指数（円換算ベース）は、作成期首（2020年2月17日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) S&P/ASX 200指数（円換算ベース）は当ファンドのベンチマークです。

### ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、オーストラリアの株式に実質的に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

### <値上がり要因>

- ・新型コロナウイルス流行後の経済活動の再開期待やワクチン開発期待の高まりなどを背景にリスク回避姿勢が緩和され、世界の株価が回復したこと。
- ・鉄鉱石や金価格など、資源価格が上昇したこと。
- ・世界の主要中央銀行が金融緩和を進めるなかで、オーストラリア準備銀行（RBA）も2度にわたる政策金利の引き下げを実施したこと。

## ＜値下がり要因＞

- ・世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済への悪影響が懸念されたこと。
- ・オーストラリア政府によるシャットダウン（商業・娯楽施設などの閉鎖）の発表などで経済減速や業績悪化に対する懸念が高まったこと。
- ・新型コロナウイルスの影響による需要低迷を受けて、原油価格などの資源価格が下落したこと。

## 1万口当たりの費用明細

（2020年2月18日～2020年8月17日）

項 目	第91期～第96期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	25	0.536	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 3 )	(0.055)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(22)	(0.465)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 1 )	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.043	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	( 2 )	(0.041)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	27	0.579	
作成期間の平均基準価額は、4,731円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

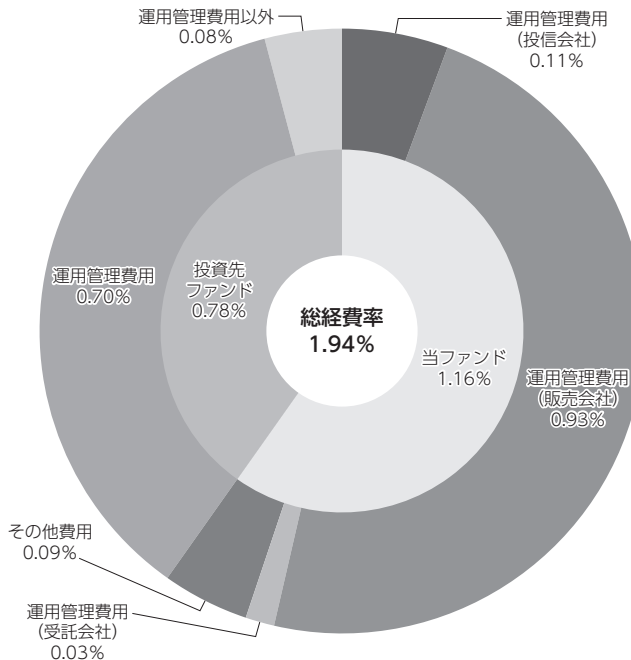
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

**(参考情報)****○総経費率**

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.94%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.94
①当ファンドの費用の比率	1.16
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.70
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.08

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

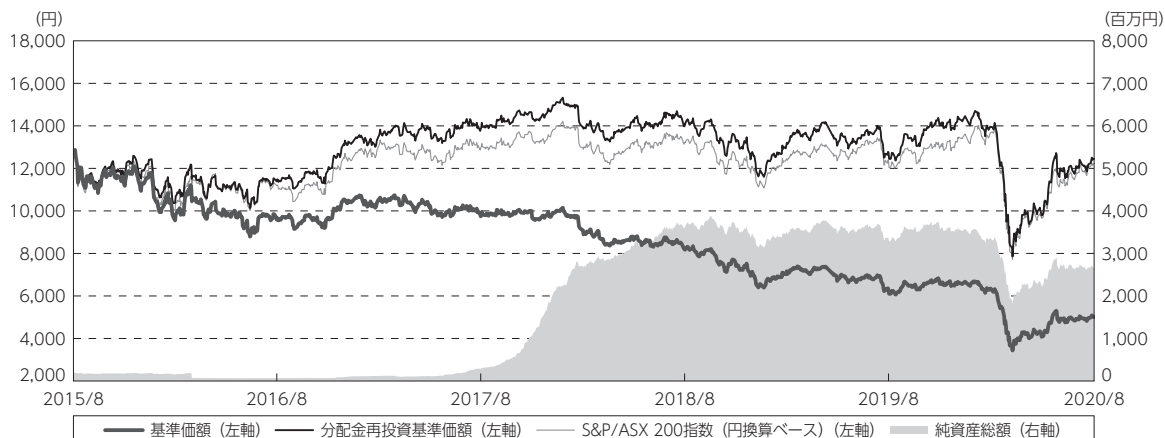
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

（2015年8月17日～2020年8月17日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびS&P/ASX 200指数（円換算ベース）は、2015年8月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年8月17日 決算日	2016年8月15日 決算日	2017年8月15日 決算日	2018年8月15日 決算日	2019年8月15日 決算日	2020年8月17日 決算日
基準価額 (円)	12,809	9,582	9,744	8,183	6,258	5,006
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,800	1,800	1,750	1,200	1,080
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 11.1	21.5	1.7	△ 9.4	△ 2.4
S&P/ASX 200指数(円換算ベース)騰落率 (%)	—	△ 12.6	15.7	2.2	△ 6.8	△ 0.8
純資産総額 (百万円)	195	68	285	3,596	3,343	2,659

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) S&P/ASX 200指数（円換算ベース）は当ファンドのベンチマークです。

## 投資環境

（2020年2月18日～2020年8月17日）

## （オーストラリア株式市況）

オーストラリア株式市場は、期間の初めと比べて下落しました。

期間の初めは、新型コロナウイルスの感染拡大懸念などからリスクセンチメントが急速に悪化しました。世界経済の減速懸念を受けて主要中央銀行が金融緩和を進めるなか、RBAも政策金利を引き下げたものの、政府によるシャットダウンの発表などが悪材料となり、下値を切り下げました。2020年4月に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大ペースの鈍化や国内外の経済活動の再開期待などを受けてリスクセンチメントが好転し、株式市場は徐々に回復基調となりました。各州で封鎖緩和が始まったことや、原油・鉄鉱石価格の上昇、新型コロナウイルスのワクチン開発期待の高まりなどをプラス材料に一時リスクオフの展開となりましたが、その後は、国内外で新型コロナウイルスの感染再拡大が警戒材料となり、一進一退となりました。

為替市場では、2020年3月にかけては新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避姿勢の高進に加えて、オーストラリアの緊急利下げや量的緩和の実施に伴ない円高／オーストラリアドル安が進みましたが、その後は経済活動の再開期待や世界的な株価の戻りなどを背景にリスク回避姿勢の緩和が進んで円安／オーストラリアドル高となり、円ベース・リターンは押し上げられる結果となりました。

セクター別では、素材や情報技術が市場を牽引した一方で、エネルギー、不動産、金融などが市場平均から大きく出遅れました。

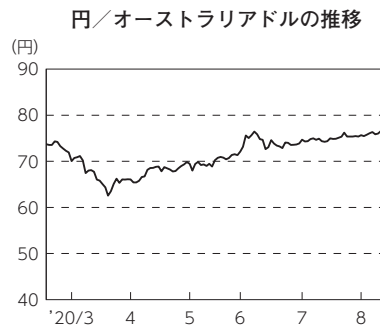
## （国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.03%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.05%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.13%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.09%近辺で期間末を迎えました。

## （為替市況）

期間中における円／オーストラリアドル相場は、右記の推移となりました。



**当ファンドのポートフォリオ**

（2020年2月18日～2020年8月17日）

**（当ファンド）**

収益性を追求するため、「オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

**（オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け））**

期間中、ポートフォリオでは主に以下の投資行動を行ないました。

割安のディフェンシブ（景気動向に左右されにくい）銘柄でありファンドへの組み入れの好機と判断したインフラ建設/トランスアーバン・グループ（資本財・サービス）、ディフェンシブ性があり配当利回りが高く魅力的なバリュー銘柄である包装製品メーカー/オーロラ（素材）、安定的な利益率や配当方針に定評のある住宅関連用品/GWAグループ（資本財・サービス）などについて新規ポジションを構築しました。

一方、一般炭銘柄から投資家が離れつつあることにより株価の下落懸念が生じた石炭生産会社/ホワイトヘイブン・コール（エネルギー）を売却したほか、自社株買いのキャンセルや配当の延期を発表した航空運輸/カンタス航空（資本財・サービス）について新型コロナウイルス危機後の株価の上昇局面を捉えて売却し、また、当ファンドにおける順位付けが下がった総合量販店/ハーベイ・ノーマン（一般消費財・サービス）などについても売却を進めました。

**（マネー・アカウント・マザーファンド）**

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

（2020年2月18日～2020年8月17日）

期間中における基準価額は、10.6%（分配金再投資ベース）の値下がりとなり、ベンチマークである「S&P/ASX 200指数（円換算ベース）」の下落率10.8%を概ね0.1%上回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

**<プラス要因>**

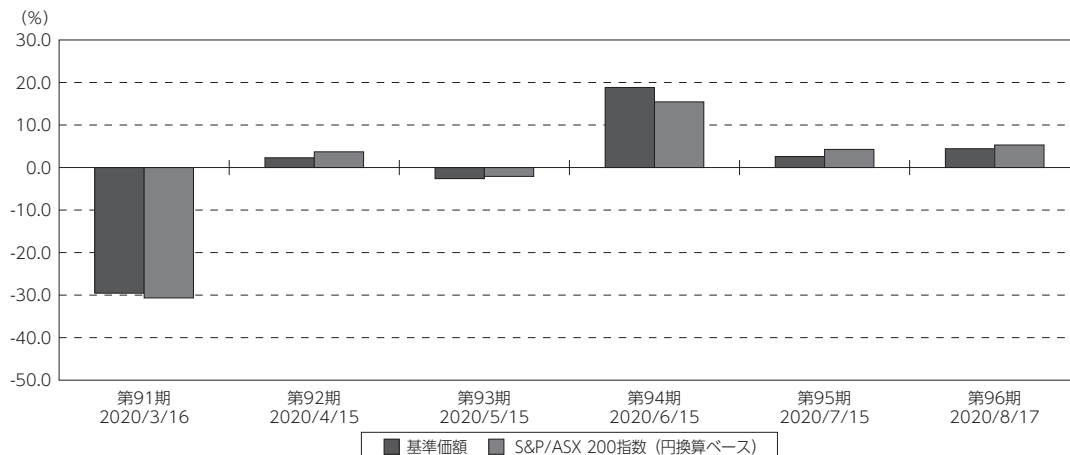
- ・商業銀行大手/オーストラリア・コモンウェルス銀行（金融）：新型コロナウイルスの影響で不良債権が増加するとの懸念や、低金利の長期化観測による純金利マージンの低下懸念などから株価が下落し、アンダーウェイトがプラスに寄与しました。
- ・バイオ医薬・血漿剤大手/シー・エス・エル（ヘルスケア）：ディフェンシブ株が敬遠されたことに加え、米国での血漿採取量不足への懸念により、血漿供与の減少が免疫グロブリンの有効利用を抑制して短期的な成長鈍化につながることから、非保有がプラスに寄与しました。
- ・非鉄金属/OZミネラルズ（素材）：銅・金価格の上昇や、主要な成長プロジェクトに関連した好材料に支えられたことが好感され、オーバーウェイトがプラスに寄与しました。

**<マイナス要因>**

- ・金融サービス/バージーン・マネーUK（金融）：本拠である英国の銀行が新型コロナウイルスによる打撃を受けたことが嫌気され、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・商業銀行/サンコップ・グループ（金融）：新型コロナウイルスにより銀行セクター全体のセンチメントが悪化するなかで主要部門である銀行部門が苦戦し、不良債権増加に対する懸念の高まりが悪材料となり、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。
- ・エンジニアリングサービス/ダウンナーEDI（資本財・サービス）：低調な建設受注や鉱山プロジェクトの着工遅延などを背景に2020年2月に業績見通しを下方修正したことや、新型コロナウイルスによる市場変動が大きく鉱業事業の売却を停止したことなどで株価が下落し、オーバーウェイトがマイナスに影響しました。



基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) S&P/ASX 200指数（円換算ベース）は当ファンドのベンチマークです。

## 分配金

(2020年2月18日～2020年8月17日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
	2020年2月18日～ 2020年3月16日	2020年3月17日～ 2020年4月15日	2020年4月16日～ 2020年5月15日	2020年5月16日～ 2020年6月15日	2020年6月16日～ 2020年7月15日	2020年7月16日～ 2020年8月17日
当期分配金	100	100	100	60	60	60
(対基準価額比率)	2.277%	2.277%	2.393%	1.238%	1.222%	1.184%
当期の収益	95	95	94	60	60	60
当期の収益以外	4	4	5	—	—	—
翌期繰越分配対象額	1,068	1,063	1,057	1,095	1,131	1,169

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### （当ファンド）

引き続き、原則として「オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### （オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け））

状況が急激に変化し不透明感が払拭されない状況下で将来を予測することは困難ですが、当ファンドでは引き続き保有銘柄の収益予想の見直しを行なっています。バリュエーション（株価評価）に影響を与え得る長期的な収益性だけでなく、短期的な収益性、配当、バランスシート上のリスクに対する影響についての見直しも含まれます。現在ポートフォリオで保有している株式に関連する個別リスクを洗い出すとともに、極端に売られる場合や、場合によっては市場における無差別的な売りによってもたらされる機会損失についてもリスク分析を行なっています。株式の長期的な収益予想モデルやバリュエーションに与える影響は、このような強制的な市場の低迷時におけるダメージがいかに深刻でどれだけ長どの程度であったかによって左右されると考えています。

今回の株価調整や政府の介入による経済情勢の変化はかつてないスピードで進んでいるため、持続可能な評価を困難にしています。しかし、見境のない売却が続いたおかげで、様々なセクターや銘柄において選別投資の機会が訪れています。株価と評価との間に生じている極端な乖離は、市場の反転時に強く収束する傾向があります。大きな調整局面において底値を拾うことは難しく、相対的に上昇した銘柄を売却しながら売られ過ぎのバリュー銘柄に徐々に入れ替えることが、このような局面では有効であると考えています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### （マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

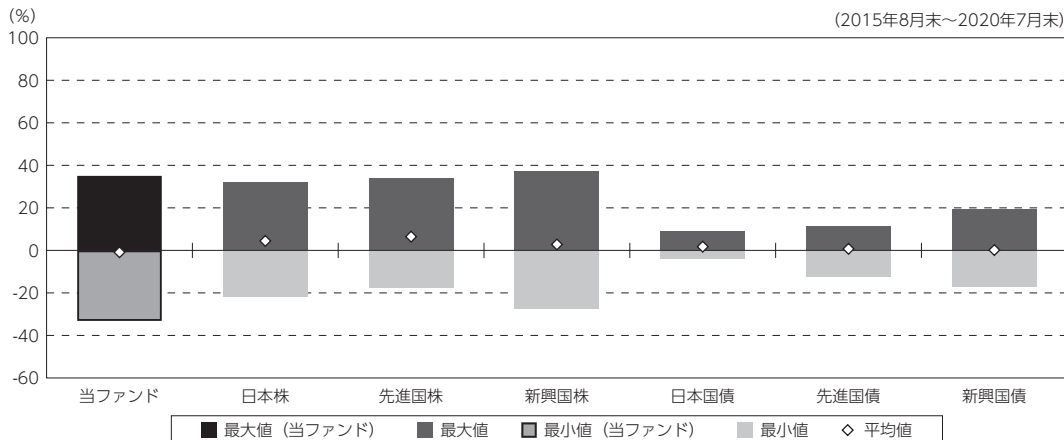
2020年2月18日から2020年8月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	2012年8月20日から2022年8月15日までです。
運用方針	主として、オーストラリアの株式を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、オーストラリアの株式を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざします。オーストラリア証券取引所を代表する株価指数をベンチマークとして、当該指数を上回る運用成果をめざします。原則として、為替ヘッジは行ないません。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

## （参考情報）

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	35.0	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 33.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 0.9	4.4	6.5	2.8	1.7	0.7	0.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年8月から2020年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのベンチマークについて

●S&amp;P/ASX 200指数（円換算ベース）

S&amp;P/ASX 200指数は、S&amp;Pダウ・ジョーンズ・インデックス（S&amp;PDJI）が発表している、オーストラリア証券取引所上場の時価総額上位200銘柄で構成される時価総額加重平均指数です。同指数の（円換算ベース）とは、公表指数を基に円換算したものです。

## 指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いられる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

（2020年8月17日現在）

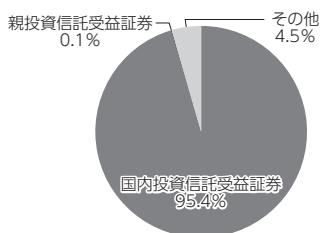
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第96期末
	%
オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け）	95.4
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

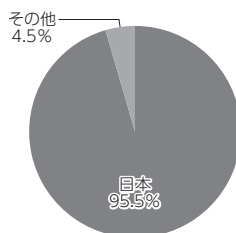
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

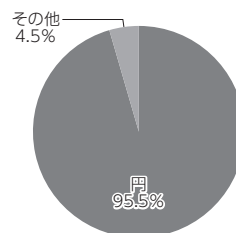
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第91期末	第92期末	第93期末	第94期末	第95期末	第96期末
	2020年3月16日	2020年4月15日	2020年5月15日	2020年6月15日	2020年7月15日	2020年8月17日
純資産総額	2,246,518,947円	2,271,824,830円	2,217,062,792円	2,626,443,137円	2,628,824,580円	2,659,627,402円
受益権総口数	5,233,610,359口	5,294,164,932口	5,435,262,858口	5,486,992,172口	5,419,347,921口	5,312,620,038口
1万口当たり基準価額	4,292円	4,291円	4,079円	4,787円	4,851円	5,006円

（注）当作成期間（第91期～第96期）中における追加設定元本額は866,150,744円、同解約元本額は846,748,650円です。

## 組入上位ファンドの概要

### オーストラリア株式ファンド（適格機関投資家向け）

#### 【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

#### 【1万口当たりの費用明細】

(2020年2月18日～2020年8月17日)

項 目	第99期～第104期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	41 (36) ( 1 ) ( 4 )	0.361 (0.317) (0.011) (0.033)
(b) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 ) ( 投 資 信 託 証 券 )	13 (12) ( 2 )	0.118 (0.101) (0.017)
(c) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( 監 査 費 用 ) ( 印 刷 費 用 ) ( そ の 他 )	6 ( 4 ) ( 0 ) ( 2 ) ( 0 )	0.054 (0.038) (0.001) (0.015) (0.000)
合 計	60	0.533

作成期間の平均基準価額は、11,393円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

#### 【組入上位ファンド】

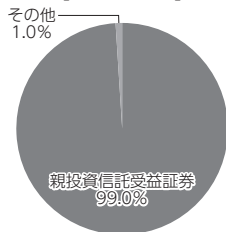
(2020年8月17日現在)

銘 柄 名	第104期末
	%
オーストラリア株式マザーファンド	99.0
組入銘柄数	1銘柄

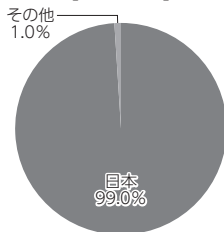
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

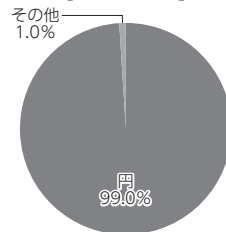
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



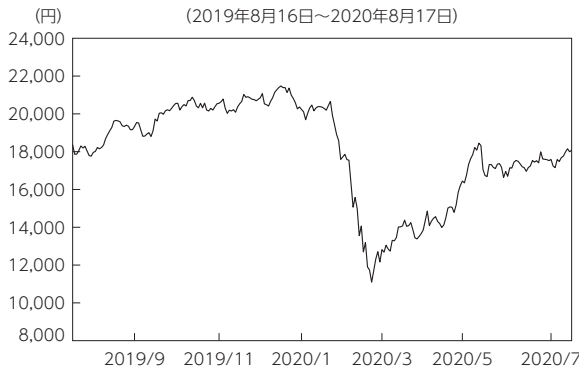
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

＜ご参考＞ オーストラリア株式マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年8月16日～2020年8月17日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	30 (26) ( 3)	0.164 (0.147) (0.018)
(b) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	11 (11) ( 0)	0.063 (0.063) (0.000)
合 計	41	0.227

期中の平均基準価額は、18,020円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。  
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。  
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

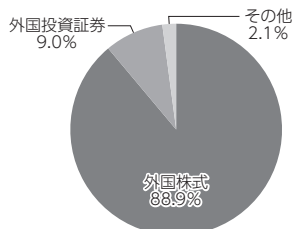
【組入上位10銘柄】

(2020年8月17日現在)

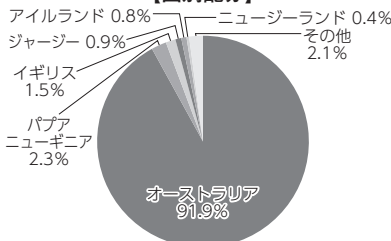
銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 ( 地 域 )	比 率
1 COLES GROUP LTD	食品・生活必需品小売り	オーストラリアドル	オーストラリア	6.1%
2 AUST AND NZ BANKING GROUP	銀行	オーストラリアドル	オーストラリア	5.1%
3 NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	銀行	オーストラリアドル	オーストラリア	4.7%
4 WESTPAC BANKING CORP	銀行	オーストラリアドル	オーストラリア	4.5%
5 TELSTRA CORPORATION LTD	電気通信サービス	オーストラリアドル	オーストラリア	4.1%
6 BHP GROUP LTD	素材	オーストラリアドル	オーストラリア	4.0%
7 COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	銀行	オーストラリアドル	オーストラリア	3.7%
8 SUNCORP GROUP LTD	保険	オーストラリアドル	オーストラリア	3.7%
9 VIVA ENERGY GROUP LTD	エネルギー	オーストラリアドル	オーストラリア	3.5%
10 DOWNER EDI LTD	商業・専門サービス	オーストラリアドル	オーストラリア	3.3%
組入銘柄数			42銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。  
 (注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。  
 (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

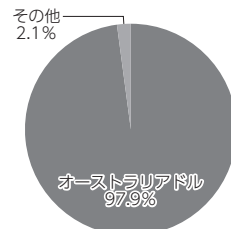
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

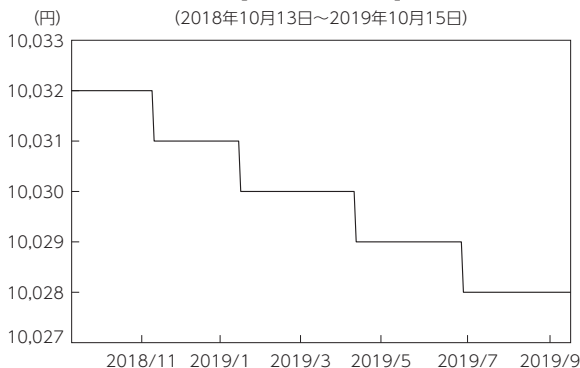


(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。  
 (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。  
 (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。  
 ※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

## マネー・アカウント・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2018年10月13日～2019年10月15日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年10月13日～2019年10月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	1 (1)	0.005 (0.005)
合 計	1	0.005

期中の平均基準価額は、10,029円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 組入資産の内容

(2019年10月15日現在)

2019年10月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。